

「佐倉市立幼稚園のあり方に関する方針（案）」に寄せられた意見と市の考え方について

1. 意見募集結果

意見募集期間	令和5年6月1日から令和5年6月15日まで
意見募集結果	意見提出者数 35人
	意見数 170件
意見に対する対応	意見を参考に案を修正したもの 0件
	原案のとおりとしたもの 170件

2. 意見の内容と市の考え方

- ・複数の理由から意見が述べられている場合は、意見の内容を分けて掲載しています。

3. 意見の入手方法等

以下の場所で閲覧ができます。

- ・教育委員会学務課（1号館4階）

No.	提出された意見の内容	意見に対する考え方	案の修正の有無
1	資料を拝見しましたが、佐倉幼稚園の園児募集をしたというが、どのような募集方法が行われていたか園庭開放、親子教室以外が不明瞭です。市内在住ですが、私立のようにポスターやチラシが目についたことがありません。行っていた募集方法を明記すべきです。	公立幼稚園においては、園庭開放事業を実施し、来園者に入園の啓発、預かり保育時間の拡張・要件の緩和、3歳児親子教室の実施、特別な支援が必要な園児の可能な限りの受け入れを行い、市ホームページの幼稚園のページでは選択制給食や預かり保育の実施を含めた、園の紹介をしております。 新年度の園児募集については、毎年度、定められた時期に「こうほう佐倉」に願書配布日及び受付期間を掲載しております。また、同時期に市ホームページにも掲載しており、ポスターについては、JR佐倉駅や市の施設に掲示しております。 令和5年1月には佐倉幼稚園を題材に「幼稚園の一日」という番組を放送し、現在もYoutubeで閲覧が可能となっております。	無
2	公立、私立共に特別に支援が必要な児童に対し、どちらも同じような対応（通園時間、日数、加配の人数など）をされているのか、それも不明瞭です。	特別な支援を必要とする園児の対応につきましては、個別に相談等を実施し、教育内容等を調整させていただいております。私立幼稚園におきましても、同様の対応をされていると認識しております。	無
3	市民にとって公立と私立両方を選べる方がよいと思います。その選択肢を無くすのは不平等ではないかなと感じます。	公立も私立も幼稚園教育要領に沿って教育を行っているところは同様と考えております。 また、私立幼稚園においては特色のある、多様な幼児教育が実施されています。 幼児教育の場の提供という観点においては、公立私立に関わらず、複数園の選択肢がございますので、捉われるものではないと考えております。	無

4	閉園ありきで話を進めるのはいかがなものでしょうか。	<p>令和5年度の入園者が1名という大変厳しい状況でしたので、就学前の園児が1名では、同年代の子ども達との学びの場の提供ができないため、緊急に検討を進めてきたところです。</p> <p>就学前児童の推計や、市内幼稚園の状況など総合的な観点から、長期の視点に立って検討を進めてきました。</p> <p>教育委員会では、幼稚園において、就学前のお子さんが、同年代の子ども達と友達づくりをし、話し合い、協力し合うことができる、集団の中での学びの環境はとても大切だと考えております。</p> <p>同年齢の子どもたちとの中で、成長に合わせて、主体性や協調性、社会的態度を身に付けていくことは、幼稚園から学校へのつなぎの側面からも、重要となります。</p> <p>市立幼稚園の現状では、このような集団生活の営みの場を提供することが難しくなっており、子どもたちに必要な幼稚園としての機能を十分に果たせないことから、閉園の方針となりました。</p>	無
5	佐倉市の公立幼稚園は卒園児の一人として、残して頂きたいです。	自身が卒園された園ということで、思い出のある場所がなくなることは寂しいと思いますが、ご理解いただければと思います。	無
6	<p>プレ幼稚園の実施も廃園に関することも、自分で調べてようやくとり着きましたし、入園希望の聞き取り調査は、誰を対象に実施したのでしょうか？</p> <p>私もそうですが、佐倉市在住の小さい子供をもつ親同士でも、そのような聞き取りがあったことは全く知りませんでした。</p>	<p>入園希望者の2名につきましては、園庭開放や親子教室の利用者から園を通じて聞いた情報ですが、来年度の入園希望者を2名として検討を進めたものではございません。</p> <p>就学前児童の推計や、市内幼稚園の状況など総合的な観点から、長期の視点に立って検討を進めたものです。</p>	無
7	幼稚園入園を考える1～3歳の親へ向けての情報周知が全くできていないと感じます。	<p>公立幼稚園においては、園庭開放事業を実施し、来園者に入園の啓発、預かり保育時間の拡張・要件の緩和、3歳児親子教室の実施、市ホームページの幼稚園のページでは選択制給食や預かり保育の実施を含めた、園の紹介しております。</p> <p>新年度の園児募集については、毎年度、定められた時期に「こうほう佐倉」に願書配布日及び受付期間を掲載しております。また、同時期に市ホームページにも掲載をしており、ポスターについては、JR佐倉駅や市の施設に掲示しております。</p> <p>令和5年1月には佐倉幼稚園を題材に「幼稚園の一日」という番組を放送し、現在もYoutubeで閲覧が可能となっております。</p>	無
8	<p>公立の良さは、私立では変えられないものがあると思います。</p> <p>佐倉幼稚園廃園に反対です。</p>	公立も私立も幼稚園教育要領に沿って教育を行っているところは同様と考えております。また、各園において様々な方針や特色があるものと考えております。	無
9	<p>佐倉市立幼稚園の3園閉園に反対します。</p> <p>障害を持つ子も持たない子も、だれ一人取り残さないため、公立幼稚園は絶対必要です。</p> <p>私立幼稚園は園長の判断で入園を断ることができるため支援の必要な子を断っていることも多いです。</p> <p>佐倉幼稚園が閉園したら支援の必要な子はどこへいけばいいのか。</p> <p>市長は子どもを選別するのでしょうか。市長の言う「オール佐倉」には支援の必要な子どもは含まれないのでしょうか。</p>	特別な支援を必要とするお子さんにつきましては、私立幼稚園等でも多数受け入れをしています。まずは、安全にお子さんをお預かりすることが重要ですので、現状では市立幼稚園においても、受け入れの調整は行っている状況です。今後とも、県や関係機関と連携を図りながら、相談、支援など対応してまいります。	無
10	佐倉幼稚園の良さをアピールする努力が佐倉市には全く感じられません。	<p>公立幼稚園においては、園庭開放事業を実施し、来園者に入園の啓発、預かり保育時間の拡張・要件の緩和、3歳児親子教室の実施、市ホームページの幼稚園のページでは選択制給食や預かり保育の実施を含めた、園の紹介しております。</p> <p>令和5年1月には佐倉幼稚園を題材に「幼稚園の一日」という広報番組を放送し、現在もYoutubeで閲覧が可能となっております。</p>	無

11	聞くところによると新佐倉図書館には私立幼稚園の入園募集パンフレットが置いてあるのに、肝心の市立佐倉幼稚園のパンフレットは置いていないということです。	3月に開館した施設であり、すでに願書の提出時期も過ぎておりましたので、佐倉幼稚園の資料は置かなかったものです。	無
12	佐倉幼稚園の経営努力や充実した養育内容を、多くの保護者は知らないままでしょう。市立幼稚園の入園児が減少した最大の原因は、市の宣伝不足ではないでしょうか	公立幼稚園においては、園庭開放事業を実施し、来園者に入園の啓発、預かり保育時間の拡張・要件の緩和、3歳児親子教室の実施、市ホームページの幼稚園のページでは選択制給食や預かり保育の実施を含めた、園の紹介しております。 令和5年1月には佐倉幼稚園を題材に「幼稚園の一日」という広報番組を放送し、現在もYoutubeで閲覧が可能となっております。	無
13	市長は佐倉市立幼稚園協会と緊密な関係があり、市立幼稚園が3年保育化を導入しようとしたとき、「民業を圧迫するから」という理由で却下したと聞いています。市立幼稚園のより私立幼稚園の経営を重視するなど、市のトップとしていかなものでしょうか。	3年保育化を見送った件につきましては、少子化の進行により、市内の私立幼稚園が定員割れしている状況や、3年保育導入にあたっての職員確保等の課題のほか、頂戴したご意見を参考に、総合的に判断されたものです。	無
14	入園児が一人だけだから閉園するとは、公的教育の責任放棄です。	令和5年度の入園者が1名という大変厳しい状況でしたので、就学前の園児が1名では、同年代の子ども達との学びの場の提供ができないため、緊急に検討を進めてきたところです。 新入園児1名につきましては、責任を持って対応に努めてまいります。	無
15	先日NHKニュースで、山口県の柳井市の離島・平郡島の小学校で、今年度3年ぶりに新1年生が入り、学校を再開させたと報道されました。たった一人でも、公教育の責任として、地域ぐるみで児童の成長を見守る温かい学校の体制が伝わってきました。佐倉市も柳井市の姿勢に学ぶべきです。必要とする子どもがいる限り、公教育の責任を放棄してはいけません。	義務教育ということや他に代替できる学校がないという状況であればそのような対応も必要であると考えます。	無
16	集団としての人数が必要というのなら募集の努力を市がやるべきです。	公立幼稚園においては、園庭開放事業を実施し、来園者に入園の啓発、預かり保育時間の拡張・要件の緩和、3歳児親子教室の実施、特別な支援が必要な園児の可能な限りの受け入れを行い、市ホームページの幼稚園のページでは選択制給食や預かり保育の実施を含めた、園の紹介しております。 新年度の園児募集については、毎年度、定められた時期に「こうほう佐倉」に願書記布日及び受付期間を掲載しております。また、同時期に市ホームページにも掲載しており、ポスターについては、JR佐倉駅や市の施設に掲示しております。 令和5年1月には佐倉幼稚園を題材に「幼稚園の一日」という番組を放送し、現在もYoutubeで閲覧が可能となっております。	無
17	一人だからと切り捨てるというのは、本末転倒です。	新入園児1名につきましては、責任を持って対応に努めてまいります。	無
18	市の説明ではそれなりの経緯があり、対策も踏んだ上で、検討されたとのことだが、市民から少し詳細な情報を聞くと、実は市の行ってきた内容は希薄、不十分であると言わざるを得ない。市立幼稚園廃止は一旦取りやめ継続すべし。	教育委員会では、幼稚園において、就学前のお子さんが、同年代の子ども達と友達づくりをし、話し合い、協力し合うことができる、集団の中での学びの環境はとても大切だと考えております。 同年齢の子どもたちの中で、成長に合わせて、主体性や協調性、社会的態度を身につけていくことは、幼稚園から学校へのつなぎの側面からも、重要となります。 市立幼稚園の現状では、このような集団生活の営みの場を提供することが難しくなっており、子どもたちに必要な幼稚園としての機能を十分に果たせないことから、閉園の方針となりました。	無
19	市立幼稚園の存続の危機的状況と市が行ってきた幼稚園行政の経緯を広く市民に周知し、広く議論の場を設けるべし。	市立幼稚園の状況等につきましては、パブリックコメント資料でお知らせをしたとおりです。なお、市立幼稚園の閉園につきましては、最終的には、市議会において審議されるものとなります。	無
20	市として幼稚園教育にどう取り組むかというビジョンを再構築することが必要、必須である。	子ども支援関連部局と連携し、引き続き幼保・小連携の実施について取り組んでまいります。	無

21	私立幼稚園だけで問題がないということであれば、市立幼稚園廃止は広く市民に受け入れられるでしょう。	方針についてはその方向性を示したものとなっております。	無
22	教育は必ずしも行政が主導し、担うことには馴染まないこともあると理解するが、公教育という点では行政が担うべき価値は厳然とある。	教育委員会では、幼稚園において、就学前のお子さんが、同年代の子ども達と友達づくりをし、話し合い、協力し合うことができる、集団の中での学びの環境はとても大切だと考えております。 同年齢の子どもたちとの中で、成長に合わせて、主体性や協調性、社会的態度を身につけていくことは、幼稚園から学校へのつなぎの側面からも、重要となります。 市立幼稚園の現状では、このような集団生活の営みの場を提供することが難しくなっており、子どもたちに必要な幼稚園としての機能を十分に果たせないことから、閉園の方針となりました。 なお、県内でも半数以上の市町村が公立の幼稚園等を設置していない状況で、減少傾向にあります。近隣では、酒々井、八千代、四街道、などで公立幼稚園等を設置していない状況で、千葉市では国立のみとなっています。	無
23	民間（私立）だけではカバーしきれないこともあるだろう。	今後とも、県や関係機関と連携を図りながら、相談、支援など対応してまいります。	無
24	市立幼稚園自体が全くなってしまうことにより、必要なことが起きた場合に即応できないということになる恐れがある。 子どものセーフティーネットという点からは保育さえあれば問題無いものとも思われるが、今ある幼稚園教育の実態がなくなるということから文化的な市行政を行う上から行政一般に影響するような損失は生じないであろうか。こうしたことも議論されていないものと理解するので上記のとおり希望する。	施設につきましては、備えとしてではなく、社会情勢の変化に応じて、その時の状況に合わせた対応について、検討されていくものと捉えております。	無
25	「佐倉市立幼稚園のあり方に関する方針策定に向けた資料」の「2. 公立幼稚園の園児数の推移」において、「佐倉幼稚園については、一定の入園希望があり、しばらく存続する必要があるものと推測していた」とあるが、実際に入園したのが1名だった。との事だが、そもそもこの乖離がなぜ発生したのか？ 表1を見ても毎年10名強の入園があったのに、急に1名というのは何らかの要因があると思われるが、資料内でその点についての分析が行われていないものと思われる。 >公立幼稚園は元々2年制である為、それでも例年10名強の入園があったため、3年制ではないことが原因とは考えにくい。 >私立幼稚園、保育園の無償化制度についても令和元年度から開始との事で、直接の影響とは考えにくい。	令和5年度の学校基本調査により、市内私立幼稚園・認定こども園に4歳児が入園した人数は、各園で1～6人となっています。 このことから、公立幼稚園においても同様の実態であると考えております。	無
26	そもそもこの人数減の理由が明確に出来ていないのに閉園の方針で進むこと自体、閉園ありきでの考え方ではないかと言わざるを得ない。	就学前児童の推計や、市内幼稚園の状況など総合的な観点から、長期の視点に立って検討を進めてきました。 教育委員会では、幼稚園において、就学前のお子さんが、同年代の子ども達と友達づくりをし、話し合い、協力し合うことができる、集団の中での学びの環境はとても大切だと考えております。 同年齢の子どもたちとの中で、成長に合わせて、主体性や協調性、社会的態度を身につけていくことは、幼稚園から学校へのつなぎの側面からも、重要となります。 市立幼稚園の現状では、このような集団生活の営みの場を提供することが難しくなっており、子どもたちに必要な幼稚園としての機能を十分に果たせないことから、閉園の方針となりました。	無

27	<p>上述の通り、原因が不明なのであれば、原因を明確にしそこに対するアプローチが出来れば、入園児童の回復にも繋がるかと思うが、入園児童を確保するための取組みが十分であったかと言うと、その様な努力が資料上からも読み取れない。</p>	<p>公立幼稚園においては、園庭開放事業を実施し、来園者に入園の啓発、預かり保育時間の拡張・要件の緩和、3歳児親子教室の実施、特別な支援が必要な園児の可能な限りの受け入れを行い、市ホームページの幼稚園のページでは選択制給食や預かり保育の実施を含めた、園の紹介をしております。</p> <p>新年度の園児募集については、毎年度、定められた時期に「こうほう佐倉」に願書記布日及び受付期間を掲載しております。また、同時期に市ホームページにも掲載しており、ポスターについては、JR佐倉駅や市の施設に掲示しております。</p> <p>令和5年1月には佐倉幼稚園を題材に「幼稚園の一日」という番組を放送し、現在もYoutubeで閲覧が可能となっております。</p>	無
28	<p>入園児が1名だったことを受けて、閉園方針を進めた様に思え、無計画すぎる。前々より、児童数の検証を鑑み、また閉園を検討しているなどがあれば、計画的に閉園すべきである。</p>	<p>令和5年度の入園者が1名という大変厳しい状況でしたので、就学前の園児が1名では、同年代の子ども達との学びの場の提供ができないため、緊急に検討を進めてきたところです。</p> <p>教育委員会では、幼稚園において、就学前のお子さんが、同年代の子ども達と友達づくりをし、話し合い、協力し合うことができる、集団の中での学びの環境はとても大切だと考えております。</p> <p>同年齢の子どもたちの中で、成長に合わせて、主体性や協調性、社会的態度を身に付けていくことは、幼稚園から学校へのつなぎの側面からも、重要となります。</p> <p>市立幼稚園の現状では、このような集団生活の営みの場を提供することが難しくなっており、新入園児が1名となり、緊急に検討を進め、子どもたちに必要な幼稚園としての機能を十分に果たせないことから、閉園の方針となりました。</p>	無
29	<p>近隣の私立園は3年制保育を導入しており、公立幼稚園は2年制保育である。公立幼稚園へ入れようと思っていたから、私立幼稚園を検討しておらず、既に年少から1年過ぎてきている輪へ入れることを考えると該当児童に対しての思いやりがなさすぎる。</p>	<p>現在、私立幼稚園や認定こども園においては、定員に空きがある状況となっておりますので、ご確認いただければと思います。</p>	無
30	<p>閉園計画については3年程度の見通しを持って取り組んでもらいたい。正直計画倒産のような印象を受ける。</p>	<p>令和5年度の入園者が1名という大変厳しい状況でしたので、就学前の園児が1名では、同年代の子ども達との学びの場の提供ができないため、緊急に検討を進めてきたところです。</p> <p>教育委員会では、幼稚園において、就学前のお子さんが、同年代の子ども達と友達づくりをし、話し合い、協力し合うことができる、集団の中での学びの環境はとても大切だと考えております。</p> <p>同年齢の子どもたちの中で、成長に合わせて、主体性や協調性、社会的態度を身に付けていくことは、幼稚園から学校へのつなぎの側面からも、重要となります。</p> <p>市立幼稚園の現状では、このような集団生活の営みの場を提供することが難しくなっており、新入園児が1名となり、緊急に検討を進め、子どもたちに必要な幼稚園としての機能を十分に果たせないことから、閉園の方針となりました。</p>	無
31	<p>「佐倉市立幼稚園のあり方に関する方針策定に向けた資料」の「5. 市立幼稚園の園児確保に向けたこれまでの取組」において、令和2・3年度に実施した、3歳児入園の検討について、少なからず園児減少の要因となっているかと思うが、進め方に不審な点が多い。</p> <p>> 「佐倉市私立幼稚園協会と協議を行った」とあるが、そもそも同業他社からしてみれば、私立幼稚園も定員数を割っている現状で、快い返事があるわけがなく、何のための協議なのか甚だ疑問である。</p>	<p>3年保育化を見送った件につきましては、少子化の進行により、市内の私立幼稚園が定員割れしている状況や、3年保育導入にあたっての職員確保等の課題のほか、頂戴したご意見を参考に、総合的に判断されたものです。</p>	無

32	> 「パブリックコメントを実施した」とあるが、在園児の親ですら存在を知らないパブリックコメントに何の意味があるのか？	規則等を定める際に、あらかじめその案を広く公表し、その案に対して寄せられた意見等を案に取り入れることができるかどうかを検討し、その検討結果（最終案）とともに、寄せられた意見等に対する市の機関の考え方をあわせて公表する制度です。	無
33	意見を募集するのであれば、公立・私立幼稚園や、児童館利用者、今後の入園に関係するような乳幼児の親向けのアンケート・意見募集があつてしかるべきではないか？	令和5年度の入園者が1名という大変厳しい状況でしたので、就学前の園児が1名では、同年代の子ども達との学びの場の提供ができないため、緊急に検討を進めてきたところです。 就学前児童の推計や、市内幼稚園の状況など総合的な観点から、長期の視点に立って検討を進めてきたものです。	無
34	子を持つ親(当事者)の意見が優先されるべき事項について、私立幼稚園協会の意見や、パブリックコメントの内容が優先されるのは手段に誤りがあったと言わざるを得ない。	3年保育化を見送った件につきましては、少子化の進行により、市内の私立幼稚園が定員割れしている状況や、3年保育導入にあたっての職員確保等の課題のほか、頂戴したご意見を参考に、総合的に判断されたものです。	無
35	資料からは、園児獲得のために園庭開放と親子教室を実施とありますが、その他具体的に行ってきたものはどのようなものでしょうか。行った内容を全て明確に記載ください。もし行っていた内容が上記と在園の保護者へのヒアリングでしたら、獲得方法として不明瞭かつ方法として不親切かと思ひます。	公立幼稚園においては、園庭開放事業を実施し、来園者に入園の啓発、預かり保育時間の拡張・要件の緩和、3歳児親子教室の実施、特別な支援が必要な園児の可能な限りの受け入れを行い、市ホームページの幼稚園のページでは選択制給食や預かり保育の実施を含めた、園の紹介をしております。 新年度の園児募集については、毎年度、定められた時期に「こうほう佐倉」に願書配布日及び受付期間を掲載しております。また、同時期に市ホームページにも掲載をしており、ポスターについては、JR佐倉駅や市の施設に掲示しております。 令和5年1月には佐倉幼稚園を題材に「幼稚園の一日」という番組を放送し、現在もYoutubeで閲覧が可能となっております。	無
36	公立の図書館に、佐倉幼稚園だけ紹介資料が置かれていないのはなぜでしょうか。	新佐倉図書館は、3月に開館した施設であり、すでに願書の提出時期も過ぎておりましたので、佐倉幼稚園の資料は置かなかったものです。	無
37	障害を持つお子さんに触れられていませんが、佐倉幼稚園で行っているインクルーシブ教育は私立でも実現可能なのでしょうか。	私立幼稚園において、特別な支援を必要とする園児を多数受け入れており、インクルーシブ教育も行われている状況です。また、公立も私立も幼稚園教育要領に沿って教育を行っているところは同様と考えております。 佐倉市としての幼児教育は、公立、私立の枠組みにかかわらず可能と考えます。	無
38	他県、他市でも私立の園に明確に入園を断られないものの、願書をなかなか渡してもらえないなどの不平等が多く発生しているようです。佐倉市でその実態調査は行われていらっしゃいますでしょうか。	私立幼稚園の指導は、県の管轄になりますので、ご相談に応じて、県や関係機関と連携を図りながら、対応に努めてまいります。	無
39	資料中に「民業圧迫」とありますが、公立が求めるものと私立が求めるものは内容が違うかと思ひます。公立は広く平等に、私立は運営のため、それぞれ園児を集め教育する場かと思ひます。目的がそれぞれ違うのに圧迫も何も無いのではないのでしょうか。	保護者が求めているものは、幼稚園教育であると捉えており、公立でも私立でも同等に幼稚園教育が行われている状況と考えております。	無
40	私は、公立は最後の受け皿であると考えています。 困って悩んだ人の寄り添いになるべき場所がなくなります。 近年、困り感のある子どもは増える一方ですが、公立の園をなくした場合の市としての取り組みをお教えください。	教育委員会では、幼稚園において、就学前のお子さんが、同年代の子ども達と友達づくりをし、話し合い、協力し合うことができる、集団の中での学びの環境はとても大切だと考えております。 同年齢の子どもたちの中で、成長に合わせて、主体性や協調性、社会的態度を身につけていくことは、幼稚園から学校へのつなぎの側面からも、重要となります。 市立幼稚園の現状では、このような集団生活の営みの場を提供することが難しくなっており、子どもたちに必要な幼稚園としての機能を十分に果たせないことから、閉園の方針となりました。 特別な支援を必要とする子どもにつきましては、私立幼稚園等でも多数受け入れをしています。まずは、安全にお子さんをお預かりすることが重要ですので、現状では市立幼稚園においても、受け入れの調整は行っている状況です。今後とも、県や関係機関と連携を図りながら、相談、支援など対応してまいります。	無

41	無償化制度がなくなったら私立に通えなくなる家庭が出る可能性があります。	現在、国、県から無償化制度がなくなるといった通知等は確認しておりませんが、そのような動きが見えてきた際に、対応について検討されるものと捉えております。	無
42	3年保育化への需要はずっと以前からありましたが、公立園もそうしてほしいという保護者の声は私立幼稚園側の民業圧迫であるという声で潰され続けてきました。3年になっても英語等、質の高い幼児教育や園バス等公立園との違いがあるのでそれほど民業圧迫になるとは思えず、もう少し検討すべきであったのではないかと思います。	3年保育化を見送った件につきましては、少子化の進行により、市内の私立幼稚園が定員割れしている状況や、3年保育導入にあたっての職員確保等の課題のほか、頂戴したご意見を参考に、総合的に判断されたものです。	無
43	少子化ですが、なおのこと公立園を無くすことはしてはいけないと思います。園児数の減少で私立の経営が傾いた場合、園は先生の数に余裕が無くなります。余裕の無い人数で安全に運営するために手のかかる園児（障害のある子供や外国ルーツの子供）を受け入れられなくなってしまいます。	特別な支援を必要とする子どもにつきましては、私立幼稚園等でも多数受け入れをしています。まずは、安全にお子さんをお預かりすることが重要ですので、現状では市立幼稚園においても、受け入れの調整は行っている状況です。今後とも、県や関係機関と連携を図りながら、相談、支援など対応してまいります。 また、施設につきましては、将来的な備えとしてではなく、社会情勢の変化に応じて、その時の状況に合わせた対応について、検討されていくものと捉えております。	無
44	現時点で私立に入園させてもらえない子の受け皿だった場所を失うことは、弱者切り捨てであり、幼稚園事業の終了は佐倉市民のためにならないかと思われます。	特別な支援を必要とする子どもにつきましては、私立幼稚園等でも多数受け入れをしています。まずは、安全にお子さんをお預かりすることが重要ですので、現状では市立幼稚園においても、受け入れの調整は行っている状況です。今後とも、県や関係機関と連携を図りながら、相談、支援など対応してまいります。	無
45	どうか公立園を安易に閉園せず存続の努力を尽くした上で結論を出していただきたいです。	教育委員会では、幼稚園において、就学前のお子さんが、同年代の子ども達と友達づくりをし、話し合い、協力し合うことができる、集団の中での学びの環境はとても大切だと考えております。 同年齢の子どもたちの中で、成長に合わせて、主体性や協調性、社会的態度を身に付けていくことは、幼稚園から学校へのつなぎの側面からも、重要となります。 市立幼稚園の現状では、このような集団生活の営みの場を提供することが難しくなっており、子どもたちに必要な幼稚園としての機能を十分に果たせないことから、閉園の方針となりました。	無
46	誰にでも平等な公立幼稚園はなくさないで下さい。 公立幼稚園は障害を持つ子どもの最後の砦です。 とりわけ佐倉幼稚園は、先生の質の高さ、環境、保護者、園児など関わる全ての人が平等で温かいという面で、障害を持つ子にとっては、なくてはならない幼稚園です。	特別な支援を必要とする子どもにつきましては、私立幼稚園等でも多数受け入れをしています。まずは、安全にお子さんをお預かりすることが重要ですので、現状では市立幼稚園においても、受け入れの調整は行っている状況です。今後とも、県や関係機関と連携を図りながら、相談、支援など対応してまいります。	無
47	市内の私立幼稚園の中には障害児への理解がある素敵な幼稚園もありますが、まだごく一部に限られています。そのような幼稚園は人気が高く、定員があるので、抽選で漏れてしまう可能性もあります。	特別な支援を必要とする子どもにつきましては、私立幼稚園等でも多数受け入れをしています。まずは、安全にお子さんをお預かりすることが重要ですので、現状では市立幼稚園においても、受け入れの調整は行っている状況です。今後とも、県や関係機関と連携を図りながら、相談、支援など対応してまいります。	無
48	障害者差別解消法についてのお話も出ておりましたが、私立幼稚園の人員不足や教育不足などによって、さくらんぼ園に通っている多くの方から、私立幼稚園から門前払いされたとか、10日で幼稚園クビになったとか、歩けない子は受け入れられないなどと断られた経験を耳にしております。	特別な支援を必要とする子どもにつきましては、私立幼稚園等でも多数受け入れをしています。まずは、安全にお子さんをお預かりすることが重要ですので、現状では市立幼稚園においても、受け入れの調整は行っている状況です。今後とも、県や関係機関と連携を図りながら、相談、支援など対応してまいります。	無
49	佐倉幼稚園の閉園を見送り、公立幼稚園を3年制にするなど、園児が増える努力をしていただきたいと思います。	3年保育化を見送った件につきましては、少子化の進行により、市内の私立幼稚園が定員割れしている状況や、3年保育導入にあたっての職員確保等の課題のほか、頂戴したご意見を参考に、総合的に判断されたものです。	無

50	佐倉市立幼稚園のあり方について、方針の3項目に賛成致します。 私立幼稚園、保育園、認定こども園の定員はあっています。同じ佐倉市内の保育施設でカバーできます。	現在、市内保育施設において幼稚園入園希望者について受け入れができる状況であると認識しております。	無
51	閉園に伴い、今後の予算は佐倉市内の保育施設への特別支援の補助に配分をお願いしたい。	幼稚園経費の活用については、限られた財源が有益に活用されるよう、企画・財政部局を中心に検討してまいります。	無
52	私立幼稚園こそ、特別支援や様々な家庭のお子様を預かり、佐倉市の教育を担っています。	現在、幼稚園、認定こども園（教育標準時間）の利用園児は約99%が私立を利用している状況であると認識しております。	無
53	入園者が1名となっている状態では仕方ないと思います。	園児数1名という状況では、集団生活の営みの場を提供することができず、子どもたちに必要な幼稚園としての機能を十分に果たせないと認識しております。	無
54	特別支援、援助が必要な子どもたちの施設が足りていないと聞きます。 そういった施設として運営していくことも方法としてあるのではないのでしょうか。	幼稚園閉園後の利活用につきましては、様々な視点に立った検討が必要ですので、教育委員会に限らず全体で慎重に検討してまいりたいと考えております。	無
55	今の園の教育・保育の水準をさげずに、特別支援の園児を受け入れ教育を行うには限界があります。市立の幼稚園は療育に特化し、その敷地・建物の有効活用はいかがでしょうか。 今現在、保育士として採用の職員で公務員の方は内勤や異動等で職は確保できるのではないのでしょうか。「さくらんぼ園」等の療育施設と併用し通園しているお子様は年々、増加傾向です。 特別支援のお子様は小さいうちから、専門の療育を受けて集団生活を幼稚園や保育園で行い、療育施設と併用できるからこそ成長があると考えます。 官民が連携し、佐倉市は支援が必要なお子様に対しても行政は手厚いサポートを行っているというのは、地域のPRにもつながるとも考えます。	幼稚園閉園後の利活用につきましては、様々な視点に立った検討が必要ですので、教育委員会に限らず全体で慎重に検討してまいりたいと考えております。	無
56	市立幼稚園の園児が激減状態で維持するのではなく、その費用（税金）を有効活用し、市議会等で議論してほしいと願います。	幼稚園経費の活用については、限られた財源が有益に活用されるよう、企画・財政部局を中心に検討してまいります。	無
57	近年、子育てのしやすい地域はメディア等でかなり特集が組まれます。 佐倉市もそのようになっていけないのでしょうか。	ご意見として今後の参考とさせていただきます。	無
58	閉園に賛同し、一部余剰資金を私立の特別支援や他の必要な支援に使っていただくことを望みます。	幼稚園経費の活用については、限られた財源が有益に活用されるよう、企画・財政部局を中心に検討してまいります。	無
59	閉園につきましては、適切な判断であると支持いたします。 新入園児数の著しい減少、市内私立幼稚園による幼児教育環境の充実度という状況を勘案しますと、公立幼稚園の存続にこだわる必要はないかと思えます。 ましてや、存続のために多額の公金が投入されるのであれば、存続の意義について客観的に説得力のある根拠が必要ですが、それがなければ閉園は至極まっとうな結論です。	私立幼稚園においては、質の高い幼児教育を受けられる充実した環境が整備されていると認識しております。 また、市立幼稚園の現状では、集団生活の営みの場を提供することが難しくなっており、子どもたちに必要な幼稚園としての機能を十分に果たせないことから、閉園の方針となりました。	無

60	一部報道に、公立は「特別支援が必要な子どもの最後の受け皿である」というような明らかな事実誤認がありました。それを根拠に公立幼稚園の存続を訴えるのは無知ということでは済まされない愚行です。	報道に事実と異なる表現があったことは認識しております。	無
61	不必要な議論を引き起こして市の税金やリソースを浪費することは厳に慎んでいただきたいと願います。	佐倉市市民協働の推進に関する条例に基づいて、政策形成過程において意見をいただくことについては、必要な手続きとなっております。	無
62	ただ園児数の減少だけをとった閉園の方針に対しては反対です。	<p>教育委員会では、幼稚園において、就学前のお子さんが、同年代の子ども達と友達づくりをし、話し合い、協力し合うことができる、集団の中での学びの環境はとても大切だと考えております。</p> <p>同年齢の子どもたちの中で、成長に合わせて、主体性や協調性、社会的態度を身に付けていくことは、幼稚園から学校へのつなぎの側面からも、重要となります。</p> <p>市立幼稚園の現状では、このような集団生活の営みの場を提供することが難しくなっており、子どもたちに必要な幼稚園としての機能を十分に果たせないことから、閉園の方針となりました。</p>	無
63	預かり保育や給食など私立の幼稚園と遜色なくサービスを提供していることをPRしていない。	市ホームページの幼稚園のページにおいて、選択制給食や預かり保育の実施等についても掲載しています。	無
64	<p>今回新聞報道等がされて、SNS上でも話題となっていますが、佐倉市民でも公立の幼稚園は預かり時間が短く、かつ弁当だから最初から選択肢に入れないという発言が散見されました。実際にはやっているにもかかわらず市民には認知がされていないということです。数年前から園児数の減少を保護者は懸念していて、園外関係者からの意見としてもそこは出ていました。</p> <p>実際に園の魅力を発信するというを市が行っていたとは到底考えられません。そもそも子育て支援ページにこども園保育園、私立幼稚園は記載がありますが、なぜ公立幼稚園は記載がなく学務課のページになるのでしょうか？管轄でHPを作るのではなく、ユーザー目線でPR活動をしてください。パンフレットを作るなり、インスタアカウントを作るなり、子育て支援施設にチラシを置くなりやってみてはいかがでしょうか？これだけでも変わると思います。</p> <p>公共のサービスは必要な人がいるからこそそのPRが必要です。せっかくいいものがあるのにそれが認知されていないというのはPR不足です。</p>	<p>公立幼稚園においては、園庭開放事業を実施し、来園者に入園の啓発、預かり保育時間の拡張・要件の緩和、3歳児親子教室の実施を行い、市ホームページの幼稚園のページでは選択制給食や預かり保育の実施を含めた、園の紹介をしております。市ホームページ子育て支援ページから公立幼稚園にもリンクはされております。</p> <p>新年度の園児募集については、毎年度、定められた時期に「こうほう佐倉」に願書記布日及び受付期間を掲載しております。また、同時期に市ホームページにも掲載をしており、ポスターについては、JR佐倉駅や市の施設に掲示しております。</p> <p>令和5年1月には佐倉幼稚園を題材に「幼稚園の一日」という番組を放送し、現在もYoutubeで閲覧が可能となっております。</p>	無
65	インクルーシブ教育が一番できている園を閉園することは佐倉市にとってマイナス	<p>私立幼稚園において、特別な支援を必要とする園児を多数受け入れており、インクルーシブ教育も行われている状況です。</p> <p>佐倉市としての幼児教育は、公立、私立の枠組みにかかわらず可能と考えます。</p>	無
66	<p>今、人的資本や人権という言葉が常識になりつつあります。この世界的な感覚となりつつある感性は幼児教育時にこそ身につけなければいけないものです。</p> <p>佐倉は周辺の都市と比べて昔から文化人やスポーツ選手、芸能系の匠の人々を育ててきた環境があります。それは、環境が良いからです。今後も世界的な人物を育てていくうえで、効率的な私立の幼稚園のみにしてしまうというのは選択肢を減らすという意味で私は反対です。</p>	<p>公立も私立も幼稚園教育要領に沿って教育を行っているところは同様と考えております。</p> <p>また、私立幼稚園においては特色のある、多様な幼児教育が実施されています。</p> <p>幼児教育の場の提供という観点においては、公立私立に関わらず、複数園の選択肢がございますので、捉われるものではないと考えております。</p>	無

67	明石市を見みならい子育て世代を呼び込むための充実した環境を提供していただきたいです。	ご意見として今後の参考とさせていただきます。	無
68	方針案決定までの時間が短く、十分に検討されたとは到底思えない	<p>令和5年度の入園者が1名という大変厳しい状況でしたので、就学前の園児が1名では、同年代の子ども達との学びの場の提供ができないため、緊急に検討を進めてきたところです。</p> <p>就学前児童の推計や、市内幼稚園の状況など総合的な観点から、長期の視点に立って検討を進めてきました。教育委員会では、幼稚園において、就学前のお子さんが、同年代の子ども達と友達づくりをし、話し合い、協力し合うことができる、集団の中での学びの環境はとても大切だと考えております。</p> <p>同年齢の子どもたちの中で、成長に合わせて、主体性や協調性、社会的態度を身に付けていくことは、幼稚園から学校へのつなぎの側面からも、重要となります。</p> <p>市立幼稚園の現状では、このような集団生活の営みの場を提供することが難しくなっており、子どもたちに必要な幼稚園としての機能を十分に果たせないことから、閉園の方針となりました。</p>	無
69	令和3年に3年制にするのは民業圧迫という話があったようですが、本当にそうでしょうか？一番の問題が少子化であるというのであれば、子育て世代を呼び込むための対策を私立幼稚園、公立幼稚園、保育園、こども園の関係者も含めて皆で考えるべきです。子育て支援施設なども同様です。	<p>市では学校や保育施設など様々な部門で子育て環境の充実を図っております。</p> <p>3年保育化を見送った件につきましては、少子化の進行により、市内の私立幼稚園が定員割れしている状況や、3年保育導入にあたっての職員確保等の課題のほか、頂戴したご意見を参考に、総合的に判断されたもので、現時点において、3年保育化を実施する予定はございません。</p>	無
70	今回の閉園は入園者が1名になってしまったからあわてて発表したとしか思えません。そもそも新聞報道では2022年11月から検討したと記載がありましたが、検討期間が短すぎませんか？他市は5年のスパンです。	<p>令和5年度の入園者が1名という大変厳しい状況でしたので、就学前の園児が1名では、同年代の子ども達との学びの場の提供ができないため、緊急に検討を進めてきたところです。</p> <p>就学前児童の推計や、市内幼稚園の状況など総合的な観点から、長期の視点に立って検討を進めてきました。教育委員会では、幼稚園において、就学前のお子さんが、同年代の子ども達と友達づくりをし、話し合い、協力し合うことができる、集団の中での学びの環境はとても大切だと考えております。</p> <p>同年齢の子どもたちの中で、成長に合わせて、主体性や協調性、社会的態度を身に付けていくことは、幼稚園から学校へのつなぎの側面からも、重要となります。</p> <p>市立幼稚園の現状では、このような集団生活の営みの場を提供することが難しくなっており、子どもたちに必要な幼稚園としての機能を十分に果たせないことから、閉園の方針となりました。</p>	無
71	<p>今回のパブリックコメントを取るのであれば同様に市民の声をきき、現在私立の幼稚園に通っている保護者も含めて、3年制にしたらどうなるのかということも同様に調査をするべきだと思います。</p> <p>※今後は私立幼稚園も園児は減っていくことが予想されます。私立公立問わずに考えていくべきです。</p> <p>保護者からのアンケートでは3年制にすれば来る人はいると話が出ています。民業圧迫になるといいますが、法を盾に支援が必要な子を民間に押し付けるのは教育の質が下がるため結果的には佐倉市の教育の質の低下となり子育て世代からの敬遠となります。</p> <p>佐倉市は子育て世代に人気の街になっていき人を集めていくべきだと思います。</p>	<p>3年保育化を見送った件につきましては、少子化の進行により、市内の私立幼稚園が定員割れしている状況や、3年保育導入にあたっての職員確保等の課題のほか、頂戴したご意見を参考に、総合的に判断されたもので、現時点において、3年保育化を実施する予定はございません。</p>	無

72	<p>他市でも、しっかりと住民の声と5年、10年後の調査をしたうえで検討を重ねている話です。早急に閉園とするのではなく、3年～5年しっかりと調査と対話をしたうえで、公立幼稚園3園の方向性を決めていただきたいので、今回の方策にはご再考をお願いいたします。</p>	<p>令和5年度の入園者が1名という大変厳しい状況でしたので、就学前の園児が1名では、同年代の子ども達との学びの場の提供ができないため、緊急に検討を進めてきたところです。</p> <p>就学前児童の推計や、市内幼稚園の状況など総合的な観点から、長期の視点に立って検討を進めてきました。</p> <p>教育委員会では、幼稚園において、就学前のお子さんが、同年代の子ども達と友達づくりをし、話し合い、協力し合うことができる、集団の中での学びの環境はとても大切だと考えております。</p> <p>同年齢の子どもたちとの中で、成長に合わせて、主体性や協調性、社会的態度を身に付けていくことは、幼稚園から学校へのつなぎの側面からも、重要となります。</p> <p>市立幼稚園の現状では、このような集団生活の営みの場を提供することが難しくなっており、子どもたちに必要な幼稚園としての機能を十分に果たせないことから、閉園の方針となりました。</p>	無
73	<p>佐倉市立幼稚園のあり方に関する方針（案）に反対し、方針（案）の撤回を求めます。</p> <p>公立幼稚園について、園児数が減っていることを、少子化、時代ニーズの変化とっていますが、市は園児数確保のための努力をしてきたのでしょうか。広報さくらやホームページ、佐倉市立幼稚園が目に触れることはまるでありません。公立幼稚園の良さのPR、入園児数確保の努力が足りなすぎます。公立幼稚園のPR、入園児確保の努力無しに、園児数が減少しているから閉園とは、いうべきではありません。</p>	<p>公立幼稚園においては、園庭開放事業を実施し、来園者に入園の啓発、預かり保育時間の拡張・要件の緩和、3歳児親子教室の実施、特別な支援が必要な園児の可能な限りの受け入れを行い、市ホームページの幼稚園のページでは選択制給食や預かり保育の実施を含めた、園の紹介をしております。</p> <p>新年度の園児募集については、毎年度、定められた時期に「こうほう佐倉」に願書配布日及び受付期間を掲載しております。また、同時期に市ホームページにも掲載しており、ポスターについては、JR佐倉駅や市の施設に掲示しております。</p> <p>令和5年1月には佐倉幼稚園を題材に「幼稚園の一日」という番組を放送し、現在もYoutubeで閲覧が可能となっております。</p>	無
74	<p>公立幼稚園は、のびのびと様々な個性をもった子どもたちが遊び学べる環境であり、これからの時代を担う子どもたちにとっての理想的なインクルーシブ教育の現場です。このような公立幼稚園が無くなれば、経営第一の私立幼稚園では、集団生活からはみ出す園児について、どこまで見てもらえるのか。支援が必要な子どもをもつ親たちは、私立幼稚園の見学に行き、願書をもらえる雰囲気ではなく、自ら諦めて帰ってくるという、事実上の入園拒否のような対応をうけています。そのような私立幼稚園が、支援が必要な子どもを持つ家庭に寄り添うことができるのか。公立幼稚園はセーフティーネットとして機能しているのです。公立幼稚園を閉園してしまえば、支援が必要な家庭において、さらに厳しい状況を生みます。</p>	<p>私立幼稚園において、多数の支援を要するお子さんを受け入れており、現状として、インクルーシブ教育は行われている状況です。</p> <p>まずは、安全にお子さんをお預かりすることが重要ですので、現状では市立幼稚園においても、受け入れの調整は行っている状況です。今後とも、県や関係機関と連携を図りながら、相談、支援など対応してまいります。</p>	無
75	<p>公立幼稚園の閉園が検討されると聞いたのが令和5年3月、5月保護者への報告会をし、6月の教育委員会議で決定しようという短期間で進む状況は閉園ありきで議論がすすんでいるようで、到底納得できない。議論の中身を公開し、保護者、地域住民の意見を聞き、入園希望者の状況を調査し、入園児確保の努力をするとともに、5年以上の時間をかけて議論するべきである。公立幼稚園という市民の財産を拙速に閉園するべきではない。</p>	<p>令和5年度の入園者が1名という大変厳しい状況でしたので、就学前の園児が1名では、同年代の子ども達との学びの場の提供ができないため、緊急に検討を進めてきたところです。</p> <p>就学前児童の推計や、市内幼稚園の状況など総合的な観点から、長期の視点に立って検討を進めてきました。</p> <p>教育委員会では、幼稚園において、就学前のお子さんが、同年代の子ども達と友達づくりをし、話し合い、協力し合うことができる、集団の中での学びの環境はとても大切だと考えております。</p> <p>同年齢の子どもたちとの中で、成長に合わせて、主体性や協調性、社会的態度を身に付けていくことは、幼稚園から学校へのつなぎの側面からも、重要となります。</p> <p>市立幼稚園の現状では、このような集団生活の営みの場を提供することが難しくなっており、子どもたちに必要な幼稚園としての機能を十分に果たせないことから、閉園の方針となりました。</p>	無

76	誰一人取り残さない社会のために、佐倉市の未来のために、子どもを安心して生み育てることができる環境づくりのために、公立幼稚園を存続してください。	<p>教育委員会では、幼稚園において、就学前のお子さんが、同年代の子ども達と友達づくりをし、話し合い、協力し合うことができる、集団の中での学びの環境はとても大切だと考えております。</p> <p>同年齢の子どもたちの中で、成長に合わせて、主体性や協調性、社会的態度を身に付けていくことは、幼稚園から学校へのつなぎの側面からも、重要となります。</p> <p>市立幼稚園の現状では、このような集団生活の営みの場を提供することが難しくなっており、子どもたちに必要な幼稚園としての機能を十分に果たせないことから、閉園の方針となりました。</p>	無
77	新聞報道で市立幼稚園の閉園を知りました。保護者への説明が不十分で拙速な判断だと考えます。	保護者へは、教育委員会会議の協議の段階で、園を通して3月と、5月、6月、7月にご説明をさせていただいております。	無
78	障がいのある子どもが私立を断られた時の受け皿として、市立の幼稚園は公民館同様、コモン（市民が生きていくための共有の財産）だという認識があります。	特別な支援を必要とする子どもにつきましては、私立幼稚園等でも多数受け入れをしています。まずは、安全にお子さんをお預かりすることが重要ですので、現状では市立幼稚園においても、受け入れの調整は行っている状況です。今後とも、県や関係機関と連携を図りながら、相談、支援など対応してまいります。	無
79	突然閉園を決める可能性のある民営の幼稚園だけでは、市民生活の将来は暗いものを感じざるを得ません。教育は儲けの対象ではありません。	現在、公立幼稚園を運営していない自治体も多数あります。また、幼児教育無償化の財源については市が負担しております。	無
80	三年保育制にすれば、さらに雇用も生まれます。民間と同じように行政や保育園でもパート労働が増え、生活が保障されないのではそのあげくに消費行動につながらず、経済も回らないという悪循環が起きています。	3年保育化を見送った件につきましては、少子化の進行により、市内の私立幼稚園が定員割れしている状況や、3年保育導入にあたっての職員確保等の課題のほか、頂戴したご意見を参考に、総合的に判断されたものです。	無
81	佐倉市として、コモンの財産としての市立幼稚園は存続させるべきと考えます。	<p>教育委員会では、幼稚園において、就学前のお子さんが、同年代の子ども達と友達づくりをし、話し合い、協力し合うことができる、集団の中での学びの環境はとても大切だと考えております。</p> <p>同年齢の子どもたちの中で、成長に合わせて、主体性や協調性、社会的態度を身に付けていくことは、幼稚園から学校へのつなぎの側面からも、重要となります。</p> <p>市立幼稚園の現状では、このような集団生活の営みの場を提供することが難しくなっており、子どもたちに必要な幼稚園としての機能を十分に果たせないことから、閉園の方針となりました。</p>	無
82	<p>佐倉市の提案する方針案は、民意を反映したものとは言えません。案の廃案もしくは一時凍結を強く求めます。</p> <p>方針を決定する前に、まずは市民が納得のするような方法で、民意を集めてください。これは保護者や市民に対して、わずか数か月の説明期間で進めるような案件ではありません。ましてや、十分な案を検討もせず、「私立幼稚園を守るため」や「予算を削減するため」などとという理由で、決定することなど言語道断です。</p>	<p>令和5年度の入園者が1名という大変厳しい状況でしたので、就学前の園児が1名では、同年代の子ども達との学びの場の提供ができないため、緊急に検討を進めてきたところです。</p> <p>就学前児童の推計や、市内幼稚園の状況など総合的な観点から、長期の視点に立って検討を進めてきました。</p> <p>教育委員会では、幼稚園において、就学前のお子さんが、同年代の子ども達と友達づくりをし、話し合い、協力し合うことができる、集団の中での学びの環境はとても大切だと考えております。</p> <p>同年齢の子どもたちの中で、成長に合わせて、主体性や協調性、社会的態度を身に付けていくことは、幼稚園から学校へのつなぎの側面からも、重要となります。</p> <p>市立幼稚園の現状では、このような集団生活の営みの場を提供することが難しくなっており、子どもたちに必要な幼稚園としての機能を十分に果たせないことから、閉園の方針となりました。</p>	無

83	<p>東金市や茂原市の公立幼稚園のあり方に関する計画を見ても、10年近いスパンで、単なる大まかな数値だけではなく、地域ごとに細かい数字を算出し、なおかつ公立幼稚園は絶対に無くさない（無くせない）という考えの下、計画が作成し実行されています。</p> <p>佐倉市もまずはこのような長期間のスパンで、公立幼稚園の存続と閉園をしっかりと並列して考えた上で、どちらの選択をすべきなのか、を有識者会議を実施した上で、計画を作成してください。</p>	<p>令和5年度の入園者が1名という大変厳しい状況でしたので、就学前の園児が1名では、同年代の子ども達との学びの場の提供ができないため、緊急に検討を進めてきたところです。</p> <p>就学前児童の推計や、市内幼稚園の状況など総合的な観点から、長期の視点に立って検討を進めてきました。</p> <p>教育委員会では、幼稚園において、就学前のお子さんが、同年代の子ども達と友達づくりをし、話し合い、協力し合うことができる、集団の中での学びの環境はとても大切だと考えております。</p> <p>同年齢の子どもたちとの中で、成長に合わせて、主体性や協調性、社会的態度を身に付けていくことは、幼稚園から学校へのつなぎの側面からも、重要となります。</p> <p>市立幼稚園の現状では、このような集団生活の営みの場を提供することが難しくなっており、子どもたちに必要な幼稚園としての機能を十分に果たせないことから、閉園の方針となりました。</p>	無
84	<p>例えば佐倉幼稚園と佐倉保育園を佐倉こども園として1つに統合し、0歳～3歳までは現在の保育園の校舎、4～5歳は現在の幼稚園の校舎に通うといった選択も御検討いただきたいと考えています。また、コミュニティバスの走行区間や乗車率から、赤字区間や乗車率が著しく低い区間については、子ども園のスクールバスとして活用することも考えられます。（私立幼稚園の園児にも使用してもらえば、私立幼稚園の費用削減にも繋がります）</p> <p>このような様々な案を持ち寄ったうえで、佐倉幼稚園のあり方について、改めて計画を立案することを望みます。</p>	<p>幼稚園閉園後の利活用につきましては、様々な視点に立った検討が必要ですので、教育委員会に限らず全体で慎重に検討してまいりたいと考えております。</p>	無
85	<p>なお、今回の市の案が、民意を反映したものではないことを証明するために、今回私たちが、アンケート調査を実施しました。佐倉市に在住もしくは佐倉市内に通学・勤務している方々から集めた意見を、以下に書き上げます。</p>	<p>独自アンケートの回答として、ご意見を頂戴いたします。</p> <p>なお、独自アンケートによるご意見につきましては、佐倉市民協働の推進に関する条例施行規則第4条第4項に定める、意見の提出をしようとするものの住所及び氏名の記載が無いことから、意見内容の掲載は割愛させていただきます。</p>	無
86	<p>「佐倉市立幼稚園のあり方に関する方針」（案）については賛成します。</p> <p>幼児教育はある程度の同年齢や異年齢を通した集団生活の中で心身の成長が育まれます。その点が家庭教育と大きく違うと思います。</p>	<p>教育委員会では、幼稚園において、就学前のお子さんが、同年代の子ども達と友達づくりをし、話し合い、協力し合うことができる、集団の中での学びの環境はとても大切だと考えております。</p>	無
87	<p>親にとってもある程度の保護者人数がいたほうが、子どもの在園数同様に必要です。</p>	<p>保護者同士のコミュニケーションをとれる環境も大切であると考えております。</p>	無
88	<p>子ども達が卒園した母園が閉園することに一抹の寂しさはありますが、時代の流れであり、また、6月8日付読売新聞の記事によりますと、3園で約8千万円の運営費がかかるのとこと、その分を佐倉市の私立幼稚園や保育園等市の幼児教育につかって欲しいと願っています。</p>	<p>幼稚園経費の活用については、限られた財源が有益に活用されるよう、企画・財政部局を中心に検討してまいります。</p>	無
89	<p>佐倉市教育委員会の方針に賛成し、英断に敬意を表します。反対のための反対の声に惑わされないでほしい。</p>	<p>市立幼稚園の現状では、集団生活の営みの場を提供することが難しくなっており、子どもたちに必要な幼稚園としての機能を十分に果たせないことから、閉園の方針となりました。</p>	無
90	<p>公立幼稚園は、一定の役割を終えたなど、ありえない話です。</p> <p>公教育の放棄、行政の責任放棄というほかありません。</p>	<p>教育委員会では、幼稚園において、就学前のお子さんが、同年代の子ども達と友達づくりをし、話し合い、協力し合うことができる、集団の中での学びの環境はとても大切だと考えております。</p> <p>同年齢の子どもたちとの中で、成長に合わせて、主体性や協調性、社会的態度を身に付けていくことは、幼稚園から学校へのつなぎの側面からも、重要となります。</p> <p>市立幼稚園の現状では、このような集団生活の営みの場を提供することが難しくなっており、子どもたちに必要な幼稚園としての機能を十分に果たせないことから、閉園の方針となりました。</p>	無

91	障がい等を理由に私立幼稚園では受け入れてもらえない子の受け皿として公立幼稚園は、必須です。実際、佐倉幼稚園では、私立で受け入れてもらえなかったお子さんにきめ細やかな保育が実施されていると聞いています。	特別な支援を必要とする子どもにつきましては、私立幼稚園等でも多数受け入れをしています。まずは、安全にお子さんをお預かりすることが重要ですので、現状では市立幼稚園においても、受け入れの調整は行っている状況です。今後とも、県や関係機関と連携を図りながら、相談、支援など対応してまいります。	無
92	入園人数の減少は、少子化対策をしてこなかった結果でもあります。また、次年度以降のニーズを調査したり、積極的に募集する努力をしてこなかったのではないのでしょうか。	市では学校や保育施設など様々な部門で子育て環境の充実を図っております。公立幼稚園においては、園庭開放事業を実施し、来園者に入園の啓発、預かり保育時間の拡張・要件の緩和、3歳児親子教室の実施、特別な支援が必要な園児の可能な限りの受け入れを行い、市ホームページの幼稚園のページでは選択制給食や預かり保育の実施を含めた、園の紹介をしております。新年度の園児募集については、毎年度、定められた時期に「こうほう佐倉」に願書配布日及び受付期間を掲載しております。また、同時期に市ホームページにも掲載をしており、ポスターについては、JR佐倉駅や市の施設に掲示しております。令和5年1月には佐倉幼稚園を題材に「幼稚園の一日」という番組を放送し、現在もYoutubeで閲覧が可能となっております。	無
93	公立でも3年保育を実施すると、民業圧迫という理由は論外です。行政が民間に付度しなければならない理由は、ありません。公立幼稚園の3年保育について、私立幼稚園の反対があったから、3年保育を見送ったと聞いていますが、民間に付度して公的責任を放棄するなど、あってはならないことです。市が市民のほうを向いていない、市民の声は聞かない、市民に冷たい市政といわれ非難が巻きおこることは必至です。	3年保育化を見送った件につきましては、少子化の進行により、市内の私立幼稚園が定員割れしている状況や、3年保育導入にあたっての職員確保等の課題のほか、頂戴したご意見を参考に、総合的に判断されたものです。	無
94	子は宝（市長の所信表明）、インクルーシブ教育、子育て環境の多様性、充実等言いながら（市長の所信表明）、公立幼稚園教育を放棄することは、矛盾であり本末転倒です。	私立幼稚園において、支援を要するお子さんを多数受け入れており、現状として、インクルーシブ教育は行われている状況です。また、幼稚園だけではなく学校や保育施設など様々な部門で子育て環境の充実を図っておりますので、決して幼児教育を放棄・後退するものではございません。	無
95	すでに、保護者の記者会見、要望書の提出等、報道され、多くの反対の声が挙がっています。市にもその声が届いているはずですが。もし、閉園を決定すれば、佐倉市は、子育てに向かない市として、ますます人口減少、少子化が進んで行くでしょう。公立幼稚園の閉園に強く反対します。閉園は撤回し、存続を求めます。	教育委員会では、幼稚園において、就学前のお子さんが、同年代の子ども達と友達づくりをし、話し合い、協力し合うことができる、集団の中での学びの環境はとても大切だと考えております。同年齢の子どもたちの中で、成長に合わせて、主体性や協調性、社会的態度を身につけていくことは、幼稚園から学校へのつなぎの側面からも、重要となります。市立幼稚園の現状では、このような集団生活の営みの場を提供することが難しくなっており、子どもたちに必要な幼稚園としての機能を十分に果たせないことから、閉園の方針となりました。	無
96	「佐倉市立幼稚園のあり方に関する方針」（案）に賛成します。幼児教育は集団を通して心身の健やかな成長を育む場ですが、年中入園者1名であり、また令和6年度も2名との入園予定では、総園児数からしても幼児教育の集団教育に適した適正な園児数には無理がある。	市立幼稚園の現状では、集団生活の営みの場を提供することが難しくなっており、子どもたちに必要な幼稚園としての機能を十分に果たせない状況であると認識しております。	無
97	佐倉市の幼児教育は私立幼稚園が早くから1年、2年、3年保育を実施しており、資料からも定員充足率は100%にならず空きがあり、公立幼稚園が閉園しても、子どもたちの就園を心配する必要はない。	市内施設において、幼稚園入園希望者について受け入れができる状況であると認識しております。	無
98	3歳児以上の幼児教育は公立私立を問わず無償化になり、今まで公立幼稚園が担ってきた家庭の事情による負担は解消されており、保育料費用面での役割は終えている。	幼児教育無償化により、幼稚園を選択する際に家庭が費用を問題とすることは少なくなったと考えております。	無

99	若い世代を中心に共働きの増え、今後は保育園や認定こども園への入園が増えている傾向の中で、公私問わず幼稚園の入園は減少傾向にあり、市の年齢別の人口統計も勘案すると、今後佐倉市立佐倉幼稚園入園希望者が増える可能性は少ない。	私立幼稚園についても園児数は減少傾向であると考えております。 公立幼稚園については、今年度の実態のとおりであり、今後も増加することは期待できない状況であると考えております。	無
100	税金という観点から適正なコスト面を考慮すると、今後も公立幼稚園を継続するのは妥当ではない。	教育委員会においても、公立幼稚園を継続することはコストの面においても厳しいものと考えます。	無
101	佐倉市教育委員会の公立幼稚園3園の閉園決定について賛成します。 園児の激減により、幼児期に必要な不可欠な環境としての集団社会生活が困難であり、これは人間関係の発達などに悪影響を及ぼす可能性があると思います。	教育委員会においても、幼稚園において、就学前のお子さんが、同年代の子ども達と友達づくりをし、話し合い、協力し合うことができる、集団の中での学びの環境はとても大切だと考えております。 同年齢の子どもたちとの中で、成長に合わせて、主体性や協調性、社会的態度を身に付けていくことは、幼稚園から学校へのつなぎの側面からも、重要となると考えます。	無
102	幼稚園の環境には一定の人数が必要であり、そのような環境が近くに存在するにも関わらず、子どもたちの立場を考えず、大人だけの判断で通わせたり、そのような施設を残そうとすることは、子どもたちの様々な権利を奪うことにも繋がりにかねないと思う。子どもたちはよい環境の中で育てられなければならない。	教育委員会においても、幼稚園教育を行うためには「同年代の幼児との集団生活を行う場」を提供し、適切な環境を整備する必要があると考えております。	無
103	閉園に反対する人たちは、公立だから残さなくてはいけないという前提があるのではないのでしょうか。子どもたちが被害者にならないように。子どもたちは、それなりの集団の中であそぶことで社会性を身に付けたり、人間関係を取り結ぶ。その機会を大人が奪うことはできないし、してはいけないと思うのですが。	教育委員会においても、幼稚園において、就学前のお子さんが、同年代の子ども達と友達づくりをし、話し合い、協力し合うことができる、集団の中での学びの環境はとても大切だと考えております。 同年齢の子どもたちとの中で、成長に合わせて、主体性や協調性、社会的態度を身に付けていくことは、幼稚園から学校へのつなぎの側面からも、重要となると考えます。	無
104	資金（税金等の公的資金）の使い道としては、佐倉市には特別支援や援助が必要な子が増えているので、その子たちのために市が資金を捻出し、支援をすべきではないでしょうか。	幼稚園経費の活用については、限られた財源が有益に活用されるよう、企画・財政部局を中心に検討してまいります。	無
105	佐倉市教育委員会の公立幼稚園3園の閉園決定については、大いに賛成である。佐倉市教育委員会の今回の決定は賢明であると考えます。 園児の極端な減少により、幼児期に必要な不可欠な環境としての集団社会生活が困難である。これは、人間関係の発達などにとって悪影響を及ぼす可能性がある。	教育委員会においても、幼稚園教育を行うためには「同年代の幼児との集団生活を行う場」を提供し、適切な環境を整備する必要があると考えております。	無
106	市民の税金である大切な多額の公的資金をごく少数の市民のために使うのは浪費というべきもの。	教育委員会においても、公立幼稚園を継続することはコストの面においても厳しいものと考えます。	無
107	園児の行く場所が、そこ一箇所しかないというならば別だが、受け入れ先は複数ある。しかも100%保証されている。	市内施設において幼稚園入園希望者について受け入れができる状況であると認識しております。	無
108	そもそも、幼稚園は、他の学校と違い自分で通園することができず、地域的不公平さが存在する。	佐倉市の公立幼稚園は通園バスが用意されていないこともあり、概ね利用される方の地域が限定されている実情があります。公立幼稚園に通うことができない地域につきましては、市民サービスを提供できていないと考えております。	無

109	<p>保護者や市民の方が、閉園に反対しているというが、一部の市民や保護者のことであろう。それは、少数の自分達の利益を最優先した我田引水的発想であろう。</p> <p>兎に角、子どもにとって何がいいかを真剣に考えることでしょう。子どもにとってのいい環境を優先すべきです。大人の都合に子どもをまきこまないように！</p>	<p>今回の方針の策定につきましては、子どもたちにとって、そして、幼児教育を行う上で何が大切かを念頭に検討した結果となっております。</p>	無
110	<p>余剰資金の使い道：私立幼稚園やこども園には多数の特別支援や援助が必要な子が在園し、人件費が運営費を圧迫しています。現時点での県や市の補助では到底賸りきれていません。私立園に対する補助金の増額を希望します。</p>	<p>幼稚園経費の活用については、限られた財源が有益に活用されるよう、企画・財政部局を中心に検討してまいります。</p>	無
111	<p>「学校教育法」や「幼稚園教育要領」からもわかるように、集団としての一定の園児数が確保されない状況では、心身の健やかな成長を育む場にはなりえない。</p>	<p>幼稚園教育を行うためには「同年代の幼児との手段生活を行う場」を提供し、適切な環境を整備する必要があると考えております。</p>	無
112	<p>今後の佐倉市の人口統計や若い世代のニーズを考慮すると、2年保育での入園者数の増加は難しく、私立幼稚園が定員割れしている現状の中で園児の取り合いになり、いたずらに保護者が混乱する可能性がある。</p>	<p>教育委員会においても、人口ビジョンの推計や、就学前児童数の減少傾向、保育ニーズの高まりにより、今後も園児減少が継続すると捉えております。</p>	無
113	<p>私立幼稚園も定員割れしており、公立3園が閉園しても、入園希望者が幼稚園に入園できないことはない。</p>	<p>市内施設において幼稚園入園希望者について受け入れができる状況であると認識しております。</p>	無
114	<p>市内の私立幼稚園は毎年障がい児を受け入れ、インクルーシブ教育を実践している。</p> <p>本園も昨年度は認定を受けた障がい児だけで7名、今年も5名と毎年複数名在園しながら、健常児の子どもたちと一緒に生活しています。</p> <p>インクルーシブ教育を効果的にする意味でもある程度一定数の健常児の在園児数は必要です。</p>	<p>教育委員会においても、インクルーシブ教育を行うことについても一定の人数は必要であると考えております。</p>	無
115	<p>新制度に移行した幼保連携型や幼稚園型の認定こども園には応諾義務があり園のよほどの事情がない限りは、障がい児を受け入れるようになっています。</p>	<p>特別な支援を必要とする園児については、私立幼稚園や認定こども園において多数受け入れている状況であることは認識しております。</p>	無
116	<p>公立3園の運営費約8千万円のコストと現状の園児数や来年度の園児数を考慮すると税金という観点からも運営継続は適正とは思えない。</p> <p>同じ佐倉市内在住の園児でありながら、園児一人当たりのコスト面の比較からも妥当とは思えず、むしろ不平等である。</p>	<p>教育委員会においても、公立幼稚園を継続することはコストの面においても厳しいものと考えます。</p>	無
117	<p>公立私立を問わずに教育費は無償化になり、今まで公立幼稚園が担ってきた保護者負担経費面については解消されている。</p>	<p>幼児教育無償化により、幼稚園を選択する際に家庭が費用を問題とすることは少なくなったと考えております。</p>	無
118	<p>幼稚園は同じ年齢の友達との共同生活をしながら、心身の成長を育むと思いますが、今年の年中1名、令和6年度も2名の予定で、総計3名の園児数では、幼児教育の場として目的を達成することは難しいと思います。</p>	<p>幼稚園教育を行うためには「同年代の幼児との手段生活を行う場」を提供し、適切な環境を整備する必要があると考えております。</p>	無
119	<p>現在は3歳児からの入園が普通であり、公立幼稚園の2年保育ではニーズに合わないと思います。すでに佐倉市でも私立幼稚園が3年保育を実施しており、私立幼稚園も定員に満たないので、公立幼稚園が閉園しても、子どもたちが入園できると思います。</p>	<p>市内施設において幼稚園入園希望者について受け入れができる状況であると認識しております。</p>	無

120	新聞等の報道によると、私立幼稚園が障害児を受け入れしないような記事を見聞するが、知人の園でもたくさんさんの支援を必要としている園児を受け入れているのを知っているので、心配する必要はない。報道に偏りがあるように感じる。	報道に事実と異なる表現があったことは認識しております。	無
121	読売新聞の記事では公立3園で約8千万円の運営費がかかるとのことですが、在園の人数とコスト（税金）を考えると民間ではありえない。民間でできることはそちらに任せた方が良く、市の財政問題を考えた時にも私立幼稚園に任せるべきだと思う。	教育委員会においても、公立幼稚園を継続することはコストの面においても厳しいものと考えます。	無
122	パブリックコメントの資料にもそうしたコストなどの具体的な数字があると、よりコメントする際に参考になると思います。	ご意見として今後の参考とさせていただきます。	無
123	社会情勢の変化、共働き世帯が増えていくことを考えると、資料の定員充足率から幼稚園の需要は公立幼稚園を存続させなくても十分な状況にあるのではないか。	人口ビジョンの推計や、就学前児童数の減少傾向、保育ニーズの高まりにより園児減少が継続すると捉えており、教育委員会としましては、幼稚園教育を行う環境を提供することが難しいと考え、閉園の方針としております。	無
124	公立幼稚園を存続させるための予算を、増加傾向にある支援が必要な子どもの療育体制の整備、孤立した子育てとならないための支援、外国人の子どもに対する支援、子どもの貧困に対する支援など、現在の社会情勢にあわせた取り組みに使ってほしい。 公立であることの意味合いとは、民間法人ではできないことを税金を投入して行うということだと思います。	幼稚園経費の活用については、限られた財源が有益に活用されるよう、企画・財務部局を中心に検討してまいります。	無
125	南志津保育園の民営化では、保護者の方々と交えて会議を繰り返して行いましたが、なぜ佐倉幼稚園の閉園についてはこのような会議や説明もなく決めてしまったのかとても疑問に感じます。	令和5年度の入園者が1名という大変厳しい状況でしたので、就学前の園児が1名では、同年代の子ども達との学びの場の提供ができないため、緊急に検討を進めてきたところです。 就学前児童の推計や、市内幼稚園の状況など総合的な観点から、長期の視点に立って検討を進めてきました。 教育委員会では、幼稚園において、就学前のお子さんが、同年代の子ども達と友達づくりをし、話し合い、協力し合うことができる、集団の中での学びの環境はとても大切だと考えております。 市立幼稚園の現状では、このような集団生活の営みの場を提供することが難しくなっており、子どもたちに必要な幼稚園としての機能を十分に果たせないことから、閉園の方針となりました。	無
126	高齢者の方も通える複合施設にはどうか。	幼稚園閉園後の利活用につきましては、様々な視点に立った検討が必要ですので、教育委員会に限らず全体で慎重に検討してまいりたいと考えております。	無
127	存続についての模索や話し合いが圧倒的に足りていないと思います。 新町活性化とうたって、あのような高額の建物を建設しましたが、もっと市民目線にたつて本当の意味で街が活性化するようきちんと市民と話し合いをするべきと感じます。	令和5年度の入園者が1名という大変厳しい状況でしたので、就学前の園児が1名では、同年代の子ども達との学びの場の提供ができないため、緊急に検討を進めてきたところです。 就学前児童の推計や、市内幼稚園の状況など総合的な観点から、長期の視点に立って検討を進めてきました。 教育委員会では、幼稚園において、就学前のお子さんが、同年代の子ども達と友達づくりをし、話し合い、協力し合うことができる、集団の中での学びの環境はとても大切だと考えております。 市立幼稚園の現状では、このような集団生活の営みの場を提供することが難しくなっており、子どもたちに必要な幼稚園としての機能を十分に果たせないことから、閉園の方針となりました。	無

128	<p>公立幼稚園の閉園は、反対です。</p> <p>サポートが必要な子供達をきちんと見られている公立の幼稚園は必要だと思います。幼稚園に行きたくても行けない子供を増やさない為にも、公立の幼稚園は閉園すべきではないと思います。</p>	<p>特別な支援を必要とする子どもにつきましては、私立幼稚園等でも多数受け入れをしています。まずは、安全にお子さんをお預かりすることが重要ですので、現状では市立幼稚園においても、受け入れの調整は行っている状況です。今後とも、県や関係機関と連携を図りながら、相談、支援など対応してまいります。</p>	無
129	<p>園児確保の為の対策など、もっと時間をかけて議論すべきだと思います。</p>	<p>令和5年度の入園者が1名という大変厳しい状況でしたので、就学前の園児が1名では、同年代の子ども達との学びの場の提供ができないため、緊急に検討を進めてきたところです。</p> <p>就学前児童の推計や、市内幼稚園の状況など総合的な観点から、長期の視点に立って検討を進めてきました。</p> <p>教育委員会では、幼稚園において、就学前のお子さんが、同年代の子ども達と友達づくりをし、話し合い、協力し合うことができる、集団の中での学びの環境はとても大切だと考えております。</p> <p>市立幼稚園の現状では、このような集団生活の営みの場を提供することが難しくなっており、子どもたちに必要な幼稚園としての機能を十分に果たせないことから、閉園の方針となりました。</p>	無
130	<p>まず公表案、関連資料に関して閉園を促しているのが明白であり、佐倉市が今までPRを怠った事や、現場の保護者の声を無視し続けた現実ものせるべき。</p>	<p>教育委員会では、幼稚園において、就学前のお子さんが、同年代の子ども達と友達づくりをし、話し合い、協力し合うことができる、集団の中での学びの環境はとても大切だと考えております。</p> <p>同年齢の子どもたちの中で、成長に合わせて、主体性や協調性、社会的態度を身に付けていくことは、幼稚園から学校へのつなぎの側面からも、重要となります。</p> <p>市立幼稚園の現状では、このような集団生活の営みの場を提供することが難しくなっており、子どもたちに必要な幼稚園としての機能を十分に果たせないことから、閉園の方針となりました。</p>	無
131	<p>説明会后、1週間という短い期間の中で保護者がききこみをし次年度入りたいというご家庭が5組いた事ものせるべきである。</p>	<p>来年度、再来年度の入園希望人数ではなく、就学前児童の推計や、市内幼稚園の状況など総合的な観点から、長期の視点に立って検討を進めたものです。</p>	無
132	<p>市としてなにもせずに閉園をしようとしているから保護者は納得できないのだから、やってこなかった5年をかけてPRや3年保育等現実にしてやり、それでも人数停滞であれば閉園と段階を踏まないと反対側は納得しないし、最後まで佐倉幼稚園が良いと思い利用している保護者も納得するだろう。</p>	<p>令和5年度の入園者が1名という大変厳しい状況でしたので、就学前の園児が1名では、同年代の子ども達との学びの場の提供ができないため、緊急に検討を進めてきたところです。</p> <p>就学前児童の推計や、市内幼稚園の状況など総合的な観点から、長期の視点に立って検討を進めてきました。</p> <p>教育委員会では、幼稚園において、就学前のお子さんが、同年代の子ども達と友達づくりをし、話し合い、協力し合うことができる、集団の中での学びの環境はとても大切だと考えております。</p> <p>同年齢の子どもたちの中で、成長に合わせて、主体性や協調性、社会的態度を身に付けていくことは、幼稚園から学校へのつなぎの側面からも、重要となります。</p> <p>市立幼稚園の現状では、このような集団生活の営みの場を提供することが難しくなっており、子どもたちに必要な幼稚園としての機能を十分に果たせないことから、閉園の方針となりました。</p> <p>3年保育化を見送った件につきましては、少子化の進行により、市内の私立幼稚園が定員割れしている状況や、3年保育導入にあたっての職員確保等の課題のほか、頂戴したご意見を参考に、総合的に判断されたもので、現時点において、3年保育化を実施する予定はございません。</p>	無
133	<p>市は何故、公立の幼稚園を守ろうともせず、私立幼稚園を優先するのか、甚だ理解できない。これまでの市のやり方を見ていると私立幼稚園に明らかに肩入れしており、運営を任せるのも資金調達面でも、市が管理する部分が少なく楽だからという思惑がどうしてもよぎってしまう。</p>	<p>私立幼稚園について、同じ幼児教育を実施するものとして立場は理解していますが、優先することはありません。</p>	無

134	<p>市は今一度、地域の子供達の将来、市の将来の為に本当に守るべきものは何なのかを慎重に考えるべきである。</p> <p>市が率先して私立を優先する現状の姿勢に深く落胆せざるを得ない。</p>	<p>教育委員会では、幼稚園において、就学前のお子さんが、同年代の子ども達と友達づくりをし、話し合い、協力し合うことができる、集団の中での学びの環境はとても大切だと考えております。</p> <p>同年齢の子どもたちの中で、成長に合わせて、主体性や協調性、社会的態度を身につけていくことは、幼稚園から学校へのつなぎの側面からも、重要となります。</p> <p>市立幼稚園の現状では、このような集団生活の営みの場を提供することが難しくなっており、子どもたちに必要な幼稚園としての機能を十分に果たせないことから、閉園の方針となりました。</p>	無
135	<p>令和6年3月末での市立佐倉幼稚園の閉園撤回を希望します。</p> <p>障害などを理由に、私立幼稚園から入園を断られた児童の受け皿としての役割を持つ市立幼稚園が無くなれば、その児童が幼児教育を平等に受ける権利が失われます。</p> <p>仮に私立幼稚園に対し、市から支援があったとしても、市立幼稚園と同等の対応は不可能と思います。</p> <p>また、資料に市立幼稚園の持つ役割が終わったとありますが、幼児教育無償化と歯止めの効かない全国的な少子化の影響で入園希望者が減少した点を一番の理由としている部分が納得出来ません。上記のようなこともある為、役割は決して終えていません。</p>	<p>特別な支援を必要とする子どもにつきましては、私立幼稚園等でも多数受け入れをしています。まずは、安全にお子さんをお預かりすることが重要ですので、現状では市立幼稚園においても、受け入れの調整は行っている状況です。今後とも、県や関係機関と連携を図りながら、相談、支援など対応してまいります。</p>	無
136	<p>そもそも佐倉市として、少子化への対策を積極的に行っているようには思えません。</p>	<p>佐倉市では、学校や保育施設など様々な部門で子育て環境の充実を図っております。子育て環境の充実を図ることは、少子化対策の一助となると考えられます。</p>	無
137	<p>市立幼稚園の定員確保を積極的に行っているようにも思えません。</p>	<p>公立幼稚園においては、園庭開放事業を実施し、来園者に入園の啓発、預かり保育時間の拡張・要件の緩和、3歳児親子教室の実施、特別な支援が必要な園児の可能な限りの受け入れを行い、市ホームページの幼稚園のページでは選択制給食や預かり保育の実施を含めた、園の紹介をしております。</p> <p>新年度の園児募集については、毎年度、定められた時期に「こうほう佐倉」に願書配布日及び受付期間を掲載しております。また、同時期に市ホームページにも掲載をしており、ポスターについては、JR佐倉駅や市の施設に掲示しております。</p> <p>令和5年1月には佐倉幼稚園を題材に「幼稚園の一日」という番組を放送し、現在もYoutubeで閲覧が可能となっております。</p>	無
138	<p>市が幼児教育を放棄し、閉園の結論ありきの動きとしか思えません。</p> <p>100年以上の歴史を持つ佐倉幼稚園の継続に向け十分な対策を積極的に講じてもらい、適切な教育環境の整備と園児の確保をお願いしたいと思います。</p>	<p>検討会議においては、閉園ありき、存続ありきではなく、近年の園児数の急激な減少と今年度の入園者が1名という現状を踏まえ、今後の佐倉市立幼稚園の在り方について検討しました。</p> <p>検討の結果、教育委員会として、集団生活の場という適切な教育環境を継続できないことから閉園の方針を策定したものととなります。</p>	無
139	<p>やるべきことをやった上での結果であれば致し方無いと思いますが、今回の市の方針（園児が減って、増える見込みもないので市立幼稚園を閉園する）には決して納得出来ません。</p>	<p>就学前児童の推計や、市内幼稚園の状況など総合的な観点から、長期的視点に立って検討を進めてきました。</p> <p>教育委員会では、幼稚園において、就学前のお子さんが、同年代の子ども達と友達づくりをし、話し合い、協力し合うことができる、集団の中での学びの環境はとても大切だと考えております。</p> <p>同年齢の子どもたちの中で、成長に合わせて、主体性や協調性、社会的態度を身につけていくことは、幼稚園から学校へのつなぎの側面からも、重要となります。</p> <p>市立幼稚園の現状では、このような集団生活の営みの場を提供することが難しくなっており、子どもたちに必要な幼稚園としての機能を十分に果たせないことから、閉園の方針となりました。</p>	無

140	<p>佐倉市立幼稚園の3園を閉園する方針に反対です。</p> <p>公立幼稚園は、幼児教育に対し公的役割を果たすことを目的に設立されました。</p> <p>方針策定に向けた資料にも「幼児教育の基準となる中心的な役割を担ってきた」と明記しています。公立幼稚園は、私立幼稚園では受け入れが難しい特別に支援の必要な子どもをはじめ、様々な子どものための幼児教育を担う重要な機関であることは、現在も変わりないと考えます。</p>	<p>特別な支援を必要とする子どもにつきましては、私立幼稚園等でも多数受け入れをしています。まずは、安全にお子さんをお預かりすることが重要ですので、現状では市立幼稚園においても、受け入れの調整は行っている状況です。今後とも、県や関係機関と連携を図りながら、相談、支援など対応してまいります。</p>	無
141	<p>現実的な問題として入園児の確保がむずかしい点を閉園の理由としています。公立佐倉幼稚園の園児募集などを積極的にアピールする姿勢がほとんど見られません。</p>	<p>公立幼稚園においては、園庭開放事業を実施し、来園者に入園の啓発、預かり保育時間の拡張・要件の緩和、3歳児親子教室の実施、特別な支援が必要な園児の可能な限りの受け入れを行い、市ホームページの幼稚園のページでは選択制給食や預かり保育の実施を含めた、園の紹介をしております。</p> <p>新年度の園児募集については、毎年度、定められた時期に「こうほう佐倉」に願書配布日及び受付期間を掲載しております。また、同時期に市ホームページにも掲載しており、ポスターについては、JR佐倉駅や市の施設に掲示しております。</p> <p>令和5年1月には佐倉幼稚園を題材に「幼稚園の一日」という番組を放送し、現在もYoutubeで閲覧が可能となっております。</p>	無
142	<p>来年度に入園予定の聞き取りもごく限られた保護者に行っただけで、広く調査することもなく結論を出しており、閉園ありきのとしか思えないような動きです。</p>	<p>入園希望者の2名につきましては、園庭開放や親子教室の利用者から園を通じて聞いた情報ですが、来年度の入園希望者を2名として検討を進めたものではございません。</p> <p>就学前児童の推計や、市内幼稚園の状況など総合的な観点から、長期の視点に立って検討を進めたものです。</p>	無
143	<p>今回の閉園方針は、5月の説明会で初めて保護者に公表されましたが、方針がどのような協議過程で策定されたか、全く明らかになっていないという問題もあります。</p>	<p>佐倉市立幼稚園のあり方検討会議において、対面による会議を2回行った他、随時メールなどで情報共有等を図り検討を進めてまいりました。検討会議においては、閉園ありき、存続ありきではなく、近年の園児数の急激な減少と今年度の入園者が1名という現状を踏まえ、今後の佐倉市立幼稚園の在り方について検討を行いました。</p> <p>検討の結果、教育委員会として、集団生活の場という適切な教育環境を継続できないことから閉園の方針を策定したものととなります。</p>	無
144	<p>閉園方針が出される前には、昨年8月に、公立幼稚園の3年制導入が話し合われていましたが、私立幼稚園協会から市長に反対意見が出された、PBで反対意見があった、ということで、わずか1か月で導入が撤回されたという事態も起きていました。その後に、閉園方針の協議に入ったとしていますが、保護者など関係者が入った公開の協議会も立ち上げず、すべて教育委員会内部の関係者のみで方針を話し合い、数か月で閉園の方針を決定。そのあとに、ようやく保護者説明会を開き、それもパブコメ募集前のぎりぎりで行われたという実態です。このように当事者をないがしろにし、透明で開かれた場での協議もなく、市民への説明責任も果たさず、重要な施策を決定することは到底容認できません。</p>	<p>佐倉市立幼稚園のあり方検討会議と並行して、保護者や地区代表者が集まる場に直接お伺いしまして、頂戴した意見を共有し、協議を行いました。</p> <p>教育委員会会議においては、パブリックコメントや頂戴した意見のほか、就学前児童の動向や、市内幼稚園の状況、支援を必要とする園児の受け入れ体制など総合的な観点から協議を行い、方針が決定されましたら、最終的には市議会において審議されるものとなります。</p> <p>また、主な当事者は、今年度入園した1名であり、その1名に対しては事前に相談を行っていたものです。</p>	無

145	<p>公的責任において子どもの育ちを保証する環境を維持すべきです。</p>	<p>教育委員会では、幼稚園において、就学前のお子さんが、同年代の子ども達と友達づくりをし、話し合い、協力し合うことができる、集団の中での学びの環境はとても大切だと考えております。</p> <p>同年齢の子どもたちの中で、成長に合わせて、主体性や協調性、社会的態度を身に付けていくことは、幼稚園から学校へのつなぎの側面からも、重要となります。</p> <p>市立幼稚園の現状では、このような集団生活の営みの場を提供することが難しくなっており、子どもたちに必要な幼稚園としての機能を十分に果たせないことから、閉園の方針となりました。</p>	無
146	<p>【時代背景としての考察】</p> <p>公立幼稚園の園児数の激減は、幼児教育無償化により、低所得世帯でも幼児教育が享受できるようになったことにより、民間の私立幼稚園等に比べて時間の融通や気遣いなど営業的なセンスに加え、園バスによる登降園など具体的なサービスに欠ける公立幼稚園がもはや選ばれなくなった結果であり必然の流れといえる。</p>	<p>教育委員会においても、幼児教育の無償化や、私立幼稚園において多様なサービスが提供されるようになったことで、公立幼稚園に対するニーズが低下したものと捉えています。</p>	無
147	<p>【税金の使途としての考察】</p> <p>公務員の給与体系に属する高額な職員の人件費や費用体効果を本気で求めない施設維持費などからして、園児一人当たりの経費が非常に高くなっており、公立幼稚園を懐かしむ感傷的な感情で継続を看過するには余りにも無駄遣いだと言わざるを得ない。</p>	<p>教育委員会においても、公立幼稚園を継続することはコストの面においても厳しいものと考えます。</p>	無
148	<p>【遊具・園庭・施設の質の向上に関する自助努力について】</p> <p>公立幼稚園は、簡単な施設の修繕や園庭の整備、遊具や図書に不足など、幼児の教育施設として必須の保育環境に対する整備を、保育職員の業務から完全に業務外の別費用と考えていると見られ、毎年の園庭整備や遊具や図書などの充足については、私立幼稚園等に比して格段の差があるように見える。</p> <p>これは園長やスタッフ一同が「教育者」という殻に固執し、教えるという行為と保育環境を整備するという労力を区切ってしまい、その概念による思考停止が自分達で出来る目の前のことに気づく感性を失わせてしまっているものと考えられる。</p> <p>※例えば図書が足りなければ、父兄や卒業生または市民にお願いして回ればかなりの充足を見ることが予測できるし、壊れた遊具や施設があれば公共の予算による改修を待つのでなく、知り合いにサービスで頼んでみるなど、民間企業であれば当たり前の努力がなされているのであろうか。</p>	<p>ご意見として、今後の施設の運営等において参考とさせていただきます。</p>	無
149	<p>【まとめ】</p> <p>上記に示す通り様々な角度から考えても、この度の公立幼稚園の廃園という判断は市の財政として当然であり、人口減少に臨む時代の施策としては、税金をもっと必要な個所に重点的に振り当てる必要がある中で感傷的な気持ちで悪戯に無駄な経費を使い続けることは許されないものと感じる。</p>	<p>幼稚園経費の活用については、限られた財源が有益に活用されるよう、企画・財政部局を中心に検討してまいります。</p>	無

150	<p>【園の存続が許される条件の考察】</p> <p>現在、障がい児や一般の生徒の中での保育が難しい特定の病気の子供などのケアに特化した幼稚園として維持されるならば、新しい公立幼稚園の役割としてあり得るかもしれず、検討に値するものである。</p> <p>但し障がい児保育は現在、私立幼稚園等による受け入れが殆どである現状を考えると、公立幼稚園による運営については市の責任者とスタッフが丸となって本気に取り組まなければ、私立幼稚園等の生き残りをかけた経営に比して相当に後れを取っている状況であり、一言で特殊な保育への移行と言っても簡単な事ではないと思われる。</p>	<p>幼稚園閉園後の利活用につきましては、様々な視点に立った検討が必要ですので、教育委員会に限らず全体で慎重に検討してまいりたいと考えております。</p>	無
151	<p>一部剰余金を特別支援や他の必要な支援に充てていただきたい。</p>	<p>幼稚園経費の活用については、限られた財源が有益に活用されるよう、企画・財政部局を中心に検討してまいります。</p>	無
152	<p>公立幼稚園の役割は終えた、と資料にはありますが、公立幼稚園の役割を市はどのようにお考えなのでしょうか。</p> <p>市が市立小学校、市立中学校を運営し、子供たちを育成していく上で、人格形成の礎となる幼児教育の場を市が持っていることは価値のあることだと思います。幼児教育の研究を市として行うことも、公の責務ではないでしょうか。そうした研究機関の1つとしても、佐倉市立幼稚園は適しています。</p>	<p>公立幼稚園の役割としましては、当初、幼児教育の基準となるよう中心的な役割を担ってきたことや、民間に比べて安価に幼児教育を提供してきたことと捉えております。</p> <p>市立幼稚園の現状では、集団生活の営みの場を提供することが難しくなっており、子どもたちに必要な幼稚園としての機能を十分に果たせないことから、閉園の方針となりました。</p>	無
153	<p>公立幼稚園は、産休・育休制度も充実しており、そのため職員のスキルアップが長期的になされており、かなり質の高い幼児教育が行われていると言えます。</p>	<p>私立幼稚園においても、職員のスキルアップを図るための努力をされており、質の高い幼児教育が行われていると認識しています。</p>	無
154	<p>現に、佐倉市立幼稚園と私立幼稚園の双方に子を通わせた経験のある親御さんからは、佐倉市立幼稚園は大変好評価です。ただ1点、3年保育を実施していないという点で、ご家庭の都合で佐倉市立幼稚園を選ぶことができない、というご家庭が多数あります。</p>	<p>3年保育化を見送った件につきましては、少子化の進行により、市内の私立幼稚園が定員割れしている状況や、3年保育導入にあたっての職員確保等の課題のほか、頂戴したご意見を参考に、総合的に判断されたものです。</p>	無
155	<p>佐倉市内の私立幼稚園では入園を暗に拒否された(願書を貰えない、など)、入園は受け入れて貰えたが十分な配慮はいただけず、苦しい思いをしながら通わせている、という声も多く聞かれます。障害のあるお子さん等、加配が必要なお子さんに、1対1で先生がつかない、週2回しか通えない、延長保育は預かって貰えない、などと言う事実が実際にあるということです。</p> <p>しかし、これは私立幼稚園が悪いというわけではありません。少子化で子どもの確保が難しい中、障害のあるお子さんを受け入れる余裕が無いのです。そうした部分こそ、民間に任せるとはならず、実績もあり人員の確保もできる公立が担うべきではないのでしょうか。</p>	<p>特別な支援を必要とする子どもにつきましては、私立幼稚園等でも多数受け入れをしています。まずは、安全にお子さんをお預かりすることが重要ですので、現状では市立幼稚園においても、受け入れの調整は行っている状況です。今後とも、県や関係機関と連携を図りながら、相談、支援など対応してまいります。</p>	無
156	<p>保育料無償化とはいえ、入園にかかる費用、年間の材料費等の家庭が負担する費用には私立と公立で差があるのも事実です。まだ若い子育て世帯には、私立幼稚園での費用が負担になるご家庭もあります。</p>	<p>幼児教育無償化の他、私立幼稚園における、低所得世帯や多子世帯への給食費の免除制度により、経済的負担の軽減を図っています。</p> <p>幼児教育無償化の対象となる部分については国の制度により定められていますので、ご理解ください。</p>	無

157	<p>また、先に述べた質の高い幼児教育に加え、恵まれた自然環境、全日選択制給食、理由を問わない預かり保育、夏季休暇中の預かりなど、子育て家庭を助けてくれるものが佐倉市立幼稚園にはたくさんあります。</p> <p>経験豊かな先生方に、子供たちのみならず親も救われています。子育て家庭の育児相談の場としても、公立幼稚園は活躍しています。</p> <p>このような優れた幼稚園を市が手放すのは、本当に市として損失であり、もったいないことだと思います。まずは、需要の掘り起こしを行い、3年保育であれば通わせなかったという多数の声を無視せず、存続の方向に力を入れるべきだと思います。</p> <p>私立幼稚園が民業圧迫を懸念し反対してるとのことですが、佐倉市の私立幼稚園は公立幼稚園が例えば3年保育を実施した途端に経営難に陥るほど魅力がないのでしょうか。私はそうは思いません。私立幼稚園は園児獲得のために様々な個性的なカリキュラムを用意しているはずで、忙しい親御さんのために、便利で可愛い園バスも走らせています。</p>	<p>3年保育化を見送った件につきましては、少子化の進行により、市内の私立幼稚園が定員割れしている状況や、3年保育導入にあたっての職員確保等の課題のほか、頂戴したご意見を参考に、総合的に判断されたもので、現時点において、3年保育化を実施する予定はございません。</p>	無
158	<p>公立幼稚園の、のんびりしつつも地域との交流を大切に、子供たちの自立を養うカリキュラムを選ぶ家庭もあります。</p> <p>私立幼稚園の、他園とは違う工夫に富んだ魅力的なカリキュラムを選ぶご家庭もあります。</p> <p>私たち子育て世帯に、多様な選択肢を残してはいただけないでしょうか？本来であれば、私立公立が共存し、交流し、共に佐倉市の子供たちの幼児教育を担っていくべきなのです。</p>	<p>公立も私立も幼稚園教育要領に沿って教育を行っているところは同様と考えております。</p> <p>また、私立幼稚園においては特色のある、多様な幼児教育が実施されています。</p> <p>幼児教育の場の提供という観点においては、複数園を対象とした選択肢がございますので、公立私立に捉われるものではないと考えております。</p>	無
159	<p>本当に十分な議論を成さないまま、切り捨てていいのでしょうか。</p> <p>閉園ありきの検討ではなく、存続するための努力を伴う検討を、何卒よろしくお願い致します。</p>	<p>佐倉市立幼稚園のあり方検討会議では、閉園ありき、存続ありきではなく、近年の園児数の急激な減少と今年度の入園者が1名という現状を踏まえ、今後の佐倉市立幼稚園の在り方について検討を行いました。</p> <p>教育委員会では、幼稚園において、就学前のお子さんが、同年代の子ども達と友達づくりをし、話し合い、協力し合うことができる、集団の中での学びの環境はとても大切だと考えております。</p> <p>同年齢の子どもたちの中で、成長に合わせて、主体性や協調性、社会的態度を身に付けていくことは、幼稚園から学校へのつなぎの側面からも、重要となります。</p> <p>市立幼稚園の現状では、このような集団生活の営みの場を提供することが難しくなっており、子どもたちに必要な幼稚園としての機能を十分に果たせないことから、閉園の方針となりました。</p>	無
160	<p>市は保護者への聞き取りのみで、卒園児の保護者やこれから入園を考えている保護者に調査することなく、入園者数を想定していますが、まったく正確な数字とは言えません。</p>	<p>入園希望者の2名につきましては、園庭開放や親子教室の利用者から園を通じてお聞きした情報ですが、来年度の入園希望者を2名として検討を進めたものではございません。</p> <p>就学前児童の推計や、市内幼稚園の状況など総合的な観点から、長期の視点に立って検討を進めたものです。</p>	無

161	今年度パブリックコメントをとり、今年度末に閉園というのは、あまりに拙速です。他市では、パブリックコメントの期間も1か月、閉園予定は2025年末として行っているところもあります。せめてこのくらいの期間をもって進めるべきです。公立保育園の民営化にあたって、もっと時間をかけて検討し、各地域に1園は残すことにしたと認識しています。	令和5年度の入園者が1名という大変厳しい状況でしたので、就学前の園児が1名では、同年代の子ども達との学びの場の提供ができないため、緊急に検討を進めてきたところです。 就学前児童の推計や、市内幼稚園の状況など総合的な観点から、長期の視点に立って検討を進めてきました。 教育委員会では、幼稚園において、就学前のお子さんが、同年代の子ども達と友達づくりをし、話し合い、協力し合うことができる、集団の中での学びの環境はとても大切だと考えております。 市立幼稚園の現状では、このような集団生活の営みの場を提供することが難しくなっており、子どもたちに必要な幼稚園としての機能を十分に果たせないことから、閉園の方針となりました。	無
162	幼児教育無償化が始まるにあたり、公立幼稚園への入園希望者が減少することは容易に想定できたはずですが、3年保育にするような教育委員会会議での協議も議論もほばないようなまま議案にもならずパブリックコメントを理由として、立ち消えました。パブリックコメントには、民間幼稚園の関係者としか思えないものも多くありました。	3年保育化を見送った件につきましては、少子化の進行により、市内の私立幼稚園が定員割れしている状況や、3年保育導入にあたっての職員確保等の課題のほか、頂戴したご意見を参考に、総合的に判断されたものです。	無
163	公立幼稚園の位置づけをしっかりと認識しないまま、テコ入れをしないままの園児数の減少は、市が公立幼稚園の役割をしっかりと認識しないまま、園児募集の施策やアピールを十分にしていなかったことと考えます。	公立幼稚園においては、園庭開放事業を実施し、来園者に入園の啓発、預かり保育時間の拡張・要件の緩和、3歳児親子教室の実施、特別な支援が必要な園児の可能な限りの受け入れを行い、市ホームページの幼稚園のページでは選択制給食や預かり保育の実施を含めた、園の紹介をしております。 新年度の園児募集については、毎年度、定められた時期に「こうほう佐倉」に願書記布日及び受付期間を掲載しております。また、同時期に市ホームページにも掲載をしており、ポスターについては、JR佐倉駅や市の施設に掲示しております。 このような取り組みを行ってまいりましたが、入園児が減少している現状から、公立幼稚園に対するニーズは低下しているものと考えられます。 創立当初は、佐倉市の幼児教育を推進し、市内に私立幼稚園が開園される状況にあっては、幼児教育の基準となるよう中心的な役割を担ってまいりましたが、近年では、私立幼稚園における特色ある幼児教育など公立幼稚園でなくても質の高い幼児教育を受けられる環境が整備され、本市における公立幼稚園は一定の役割を終えたかと捉えております。	無
164	公立幼稚園の役割を考えているとは思えない。「役割を終えた」などと、公式の文書に載せていることに驚愕した。障害を持つ子どもは、私立幼稚園への入園を断られることも多いと聞く。	特別な支援を必要とする子どもにつきましては、私立幼稚園等でも多数受け入れをしています。まずは、安全にお子さんをお預かりすることが重要ですので、現状では市立幼稚園においても、受け入れの調整は行っている状況です。今後とも、県や関係機関と連携を図りながら、相談、支援など対応してまいります。	無
165	市の行うさくらんぼ園などでは、主に保護者への指導や、保護者と子どもとの関係であり、他の友達とのかかわりを学べるのは幼稚園であると、当事者の声を聞いた。	他の友達との関わりを学ぶことは、公立、私立の区別なく可能なことと考えます。また、現状では、今後も公立幼稚園の園児数が減少し、障害の有無にかかわらず、集団生活を営む場を創出するための園児の確保が厳しい状況となっています。	無
166	「誰一人とりのこさない」「インクルーシブ教育」「子どもは宝」などと所信表明演説で述べた西田市長の言葉とも合致しない。今からでも再考し、こんかいの在り方について撤回すべきです。演説で言うだけでなく、実際に施策で内容を示してください。	私立幼稚園において、支援を要するお子さんを多数受け入れており、現状として、インクルーシブ教育は行われている状況です。また、幼稚園だけではなく学校や保育施設など様々な部門で子育て環境の充実を図っておりますので、決して幼児教育を放棄・後退するものではありません。	無
167	公立幼稚園が3年制であったら、閉園の話はなかったと思います。	3年保育化を見送った件につきましては、少子化の進行により、市内の私立幼稚園が定員割れしている状況や、3年保育導入にあたっての職員確保等の課題のほか、頂戴したご意見を参考に、総合的に判断されたものです。	無
168	選択制給食や預かり保育、入園準備含む金額等、もっと佐倉市として情報を表に出していたら・・・選択肢に入る前に情報がなすすぎます。	市ホームページの幼稚園のページにおいて、選択制給食や預かり保育の実施、入園準備含む金額等について掲載しています。	無

169	<p>経済的理由から公立を選ぶ方、障害を持って不安を抱く方、多様性を考え子供の未来を思うのなら、公立幼稚園をなくしてはいけません。私立ではできないことがあるのです。子供に平等の教育を。</p>	<p>幼児教育無償化の他、私立幼稚園における、低所得世帯や多子世帯への給食費の免除制度により、経済的負担の軽減を図っています。</p> <p>また、現在は、私立幼稚園においても特別な支援を必要とする園児を多数受け入れている他、特色のある多様な幼児教育が実施されています。</p> <p>公立も私立も幼稚園教育要領に沿って教育を行っているところは同様であり、佐倉市としての幼児教育は、公立、私立の枠組みにかかわらず可能と考えます。</p>	無
170	<p>「こども園」として形を変えたとしても、佐倉市に、世界に誇れる公立幼稚園は残すべきと考えます。</p>	<p>幼稚園閉園後の利活用につきましては、様々な視点に立った検討が必要ですので、教育委員会に限らず全体で慎重に検討してまいりたいと考えております。</p>	無

※意見公募手続以外で「佐倉市立幼稚園のあり方に関する方針（案）」に寄せられた質問や意見については、以下のURLに掲載しています。

<https://www.city.sakura.lg.jp/soshiki/gakumuka/84/17704.html>